

平成十二年十一月二十四日受領
答 弁 第 一 五 号

内閣衆質一五〇第一五号

平成十二年十一月二十四日

内閣総理大臣臨時代理
国 務 大 臣 福 田 康 夫

衆議院議長 綿貫民輔殿

衆議院議員金田誠一君提出自衛隊における私的サークルに関する質問に対し、別紙答弁書を送付する。

衆議院議員金田誠一君提出自衛隊における私的サークルに関する質問に対する答弁書

一について

御指摘の「自衛隊における私的サークル」については、本来防衛庁としてこれを管理又は統括するものではないが、主として三等陸尉、三等海尉及び三等空尉以上の自衛官（以下「幹部自衛官」という。）又は幹部自衛官及びかつて幹部自衛官であった者が構成員であり、幹部自衛官又はかつて幹部自衛官であった者が代表者を務め、自衛隊の任務遂行に関連する内容を含む刊行物を定期的に発行している私的な団体（以下「私的サークル」という。）について、防衛庁において、現時点で把握しているものは、別紙一のとおりである。

二について

私的サークルの刊行物のうち、防衛庁が受け入れているものについて、これらの受入先及び部数は、別紙二のとおりである。

三について

防衛庁においては、平成四年五月十四日参議院内閣委員会における議論を踏まえ、同庁が受け入れている

る私的サークルの刊行物の発行者に対し、国会において、これらの刊行物の国会議員への貸出しについて要望が示されたことを伝えた結果、「陸戦研究」に加え、「波濤」、「翼」及び「鵬友」についても、同庁が受け入れたものを貸し出すことについて発行者の了解が得られたところである。

四の1について

防衛庁においては、平成四年五月十四日参議院内閣委員会における議論を踏まえて検討した結果、同庁において把握している私的サークルの刊行物の発行者に対し、国会において、これらの刊行物の国立国会図書館への納本等について要望が示されたことを伝えたところである。この結果、「陸戦研究」、「波濤」、「翼」及び「鵬友」については、これらの刊行物の発行者が自主的に国立国会図書館に寄贈することとしたと承知している。

四の2について

防衛庁においては、私的サークルの刊行物の国立国会図書館への納本等について、「防衛庁における文書の形式に関する訓令」（昭和三十八年防衛庁訓令第三十八号）第一条に規定する文書に該当するものを発していない。

五について

自衛隊員が私的サークルの刊行物に寄稿するに際しては、それが職務に関し意見を発表するものであつて、かつ、当該刊行物が自衛隊員以外の者にも頒布されるものである場合には、「部外に対する意見の発表について（通知）」（昭和五十六年二月二十三日官広第八百十四号）に記載されているとおり、届出等が必要となる。

団体名	所在地又は連絡先	刊行物の名称
修親会連合	東京都新宿区市谷本村町三番二〇号 新盛堂ビル五階	修親
富士修親会	静岡県駿東郡小山町須走四八一番地二七	富士
陸上自衛隊下志津修親会	千葉県千葉市若葉区若松町九〇二番地	対空
陸上自衛隊明野修親会	三重県度会郡小俣町明野五五九三番地一一	陸上航空
陸上自衛隊勝田修親会	茨城県ひたちなか市勝倉三四三三番地	施設科記事
久里浜修親会通信学校分会	神奈川県横須賀市久比里二丁目一番一号	通信電子
土浦修親会	茨城県稲敷郡阿見町青宿一二一番地一	武器
松戸修親会需品学校分会	千葉県松戸市五香六実一七番地	需品科記事
調査学校修親会	東京都小平市喜平町二丁目三番一号	情報・語学
陸上自衛隊三宿修親会	東京都世田谷区池尻一丁目二番二四号	衛生記事ふかみどり

統友会	航空自衛隊幹部学校 幹部会	航空自衛隊連合幹部 会	兵術同好会	陸戦学会	輸送学校修親会
東京都目黒区中目黒二丁目二番一号	東京都目黒区中目黒二丁目二番一号	東京都新宿区市谷本村町五番一号	東京都目黒区中目黒二丁目二番一号	東京都文京区大塚六丁目三七番五号 富士ビル一階	東京都練馬区大泉学園町
統合	鵬友	翼	波濤	陸戦研究	輸送科季報

団体名	刊行物の名称	受入先及び部数
修親会連合	修親	内部部局（十六部）、防衛大学校（六十部）、防衛医科大学校（十部）、防衛研究所（十五部）、海上自衛隊（一部）、航空自衛隊（一部）
陸上自衛隊下志津修親会	対空	内部部局（二部）、防衛大学校（一部）、陸上自衛隊（九十四部）、海上自衛隊（二部）、航空自衛隊（一部）、技術研究本部（四部）
陸上自衛隊明野修親会	陸上航空	陸上自衛隊（四十七部）、航空自衛隊（一部）
陸上自衛隊勝田修親会	施設科記事	防衛大学校（一部）、陸上自衛隊（三十五部）
久里浜修親会通信学校分会	通信電子	内部部局（二部）、防衛大学校（二十部）、防衛研究所（一部）、陸上自衛隊（二十四部）、海上自衛隊（五部）、航空自衛隊（二部）、統合幕僚会議（四十五部）、技術研究本部（十五部）、調達実施本部（九部）、防衛施設庁（二十部）
土浦修親会	武器	陸上自衛隊（五十二部）、技術研究本部（一部）
松戸修親会需品学校分会	需品科記事	防衛大学校（一部）、防衛研究所（一部）、陸上自衛隊（四十五部）、統合幕僚会議（一部）

陸上自衛隊三宿修親会	衛生記事ふかみどり	海上自衛隊（三十六部）、航空自衛隊（四十部）
輸送学校修親会	輸送科季報	陸上自衛隊（六十六部）、統合幕僚会議（五部）
陸戦学会	陸戦研究	内部部局（十二部）、防衛大学校（四部）、防衛研究所（五部）、陸上自衛隊（四十六部）、海上自衛隊（五部）、航空自衛隊（五部）、統合幕僚会議（二部）、技術研究本部（一部）
兵術同好会	波濤	内部部局（三部）、防衛大学校（三部）、防衛医科大学校（二部）、防衛研究所（二部）、陸上自衛隊（五部）、海上自衛隊（十三部）、航空自衛隊（五部）、統合幕僚会議（一部）
航空自衛隊連合幹部会	翼	内部部局（五十四部）、統合幕僚会議（三部）
航空自衛隊幹部学校幹部会	鵬友	内部部局（二部）、防衛研究所（一部）、陸上自衛隊（八部）、海上自衛隊（五部）、航空自衛隊（三部）、統合幕僚会議（一部）、技術研究本部（一部）